

インドネシアのITインフラ

インドネシアの通信インフラは、固定電話回線の普及を飛び越えて、いきなりIT化へと進んでおり、その普及は、むしろ日本より急速と言えます。場所や時間帯によっては、まだ携帯電話やインターネットがつながりにくい場合もありますが、皆さんがお仕事をされる中で、ITは重要なツールになることでしょう。

● 携帯電話とスマートフォン

インドネシアの携帯電話は、日本のように通信事業者間の互換性がないものではなく、契約している通信事業者に関わらず、どこのメーカーの携帯電話でも使用できます。そこで、インドネシアでは、各々好きな携帯電話を購入し、自分が契約している通信事業者のSIMカードを挿入して利用しています。

スマートフォンやタブレット端末は、日本同様、インドネシアでも急速に普及しており、全携帯電話に占めるスマートフォンの割合は、既に65%に達しています。日本で人気のiPhoneは、超高級品(約580万~680万ルピア/約5万~6万円)です。一番人気は、カナダのBlackBerry(約200万~550万ルピア/約2万~5万円)で、インドネシアのBlackBerryユーザーは、650万人に達しており、日常会話の中でも「後でBBM(BlackBerry Messenger)送るよ!」などと使われている程です。その他では、ノキア(フィンランド)やサムスン(韓国)のスマートフォンが高いシェアを獲得しています。

また、ショッピングモールやマンガドゥア(日本で言うアメ横のようなところ)では、B級品が山ほど売られています。多くは中国製で、インターネット機能がひとつとおりに使えるタイプの場合、80万ルピア(約7千円)位から、通話とSMS(ショートメッセージサービス)のみのタイプであれば、40万ルピア(3.5千円)位で購入できます。

日本の携帯電話をインドネシアで使用することも可能ですが、通話料・パケット料がかなり高額となります。NTTドコモの場合、インドネシア国内通話で75円/分、日本への通話は380円/分です。日本から着信した場合も、発信者側の国内通話料とは別に、着信者側にも155円/分の着信料がかかります。インターネット利用はさらに注意が必要で、日本国内で定額サービスに加入していても、海外では適用されません。携帯電話のインターネットを海外で使用すると帰国後に数万円の請求書が届くなんてこともありますのでご注意ください。また、メール受信もパケット量によっては高額になる場合がありますので、出国前にメールの受信設定を変更しておくことをお勧めします。海外向けパケット定額サービスもありますが、日額1,980円~2,980円ですので、滞在日数が長くなるとかなりの金額になります。

頻繁にインドネシアへ行かれるのであれば、現地用として現地携帯電話を購入しておくのが良いでしょう。通話料は、Telkomsel社が提供するプリペイドカードSimPATIを利用した場合、国内通話が1,000ルピア(約9円)/分、日本への国際通話は1,500ルピア(約13円)/分です。



インドネシアで人気 No.1
BlackBerry

● **WiFi**

ご出張・短期滞在でもメールチェックは欠かせないという方は、ノートPCを持参してはいかがでしょうか。インドネシアのWiFiは、日本以上に普及しています。無料か有料かは場所によって異なりますが、空港のラウンジ、ホテルのロビー、レストラン、大手飲食チェーン店（マクドナルド、スターバックス、ピザハット）などの公共エリアで、WiFiに繋げることができます。レストランやチェーン店などでは、注文時に「Minta Password Wifi（ミンタ パスワード ワイファイ）」と店員に言えば、ユーザーIDとパスワードを教えてください。ちなみにインドネシアのコンセントプラグはC型ですので、変換プラグをお忘れなく！



C型プラグ



レストランの **WiFi** 看板



WarNet 店内の様子

PCを持参する程でもなければ、ホテルのロビーなどに設置しているパソコンを利用するか、WarNet(ワル ネット)と呼ばれるインターネットカフェを利用してもいいでしょう。ただ最近、スマートフォン等の普及により、ジャカルタ市内ではあまり見かけなくなりました。また、日本語入力ソフトが入ってない場合があります。WarNet(ワル ネット)の利用料は、5,000ルピア(約45円) / 時間位が相場です。

● **SNS (ソーシャルネットワークサービス)**

インドネシアの人々(特に若者)の交流手段は、フェイスブックです。日本でもかなり浸透してきていますが、インドネシアはアメリカに次ぐ世界第2位のフェイスブック大国で、利用者は約4,000万人とも言われています。また、インターネット利用者の90%がフェイスブックユーザーという極めて特異な国でもあります。

ユドヨノ大統領も専用のページを持っており、政治家の選挙活動や企業の新商品紹介から同窓会や結婚式のお知らせまで、すべてフェイスブックで完結しています。



公共エリアでフェイスブックに興じる若者たち

インドネシアでのフェイスブックやITインフラの急速な普及は、昨今言われている中間層拡大を象徴する事例のひとつであると言えます。今日の日本は個人情報を過剰に保護するような社会になっていますが、インドネシアはまだその域には達しておらず、むしろ気さくで人との繋がりを楽しむオープンな民族性がITインフラの急速な発展を後押ししているといえるでしょう。

【お役立ちインドネシア語】

「おはようございます。〇〇社の鈴木です。前田さんはいらっしゃいますか？」

「Selamat pagi (スラマツ パギ)、Ini Suzuki dari 〇〇Company (イニ スズキ ダリ 〇〇カンパニ)、
Bisa bicara dengan Pak. Maeda? (ビサ ビチャラ ドウンガン パツ マエダ?)」

以上

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (P.T. J.C内) 概要★

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24th Floor

Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#) (電話 086-226-7365) までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応していません。